

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成26年9月11日

施設名	歴史民俗資料館	所管課	文化生活部文化推進課
-----	---------	-----	------------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県文化財団	指定期間	平成21年4月1日～平成26年3月31日
施設所在地	南国市岡豊町八幡1099-1		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県の歴史、考古及び民俗(以下「歴史民俗等」という。)に関する資料の収集、保管及び展示 ・歴史民俗等に関する専門的な調査研究 ・歴史民俗等に関する講演会、講習会、研究会等の教育普及活動 ・高知県における文化財の保存、活用の推進 ・上記のほか、歴史民俗資料館の設置の目的を達成するために必要な業務 		
	<建物> 延床面積4527.47㎡ RC造地上3階建 <土地> 124,520㎡ <主要施設> 常設展示室、企画展示室、体験学習室、AVホール、多目的室、収蔵庫、燻蒸室、研究室、会議室、資料室など <開館時間> 午前9時～午後5時 <休館日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 常設展 一般460円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料 施設利用料 企画展示室24,140円(1日) AVホール15,420円		
職員体制	常勤職員： 8人 契約職員： 13人 合計： 21人		

※職員数は平成25年4月1日現在

2 収支の状況

単位：千円

		平成24年度(決算)	平成25年度(決算)	平成26年度(予算)
収入	県支出金	134,662	135,050	154,270
	事業収入	5,945	5,442	8,390
	その他	3,641	0	10
	収入計(a)	144,248	140,492	162,670
支出	事業費	143,369	140,492	162,670
	(うち人件費)	(78,779)	(66,108)	(73,393)
	その他	879	0	0
	支出計(b)	144,248	140,492	162,670
収支差額(a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

	平成24年度(実績)	平成25年度(実績)	前年度比	
年間利用者数(単位：人)	常設展	2,137人	5,447人	+ 3,310人
	企画展	21,272人	19,747人	- 1,525人
	合計	23,409人	25,194人	+ 1,785人
	<利用実績> 総入館者数は25,194人で前年度を1,785人と上回ったが年間入館者目標30,000人を達成することができなかった。			

4 県の要求水準に対する評価

要求水準 1

「資料センターとしての機能を果たし歴史文化を未来に伝える」	
高知県の歴史や文化に関する膨大な資料を適正に管理し、また調査研究の成果を公開することでこれまでの歴史の積み重ねのうえに現在の高知県があることを今に伝え、また未来へと引き継ぐ。	
評価項目 (1)本県の歴史文化に関する資料センターとして、高知県の歴史・考古・民俗の各分野の資料等を適切に管理保管し、次世代に引き継ぐ。	
<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵機能の維持に努める。特に地震から資料を守るため収蔵庫の棚の地震対策を進める。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料収集は長期保存を念頭に置き、本県の歴史文化のうえで後世に伝えることが必要なものを対象とし、適正な保管に努める。また、収蔵庫の状況や埋蔵文化財センターとの機能分担の観点から、収集及び保管のあり方について検討する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵資料のデータ化を進めるとともに、資料館にどのような資料があるのか県民に分かりやすく紹介する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な資料を保管することができる収蔵機能とノウハウにより、資料館の資料のほか、他の文化施設等が所管する県有資料の保管も行うなど、県全体の資料センターの役割を担う。 	
状 況 説 明	
1 資料の適正な管理 ・収蔵庫の狭隘化に伴う措置として、民俗資料を旧大柝高校に移動した。 ・収蔵環境はおおむね安定した定温・定湿環境を確保しており、収蔵資料の顕著な劣化等は発生していない。 ・緊急雇用事業により、民俗資料を中心として台帳整理を進めた。	
2 調査研究成果の公開 ・資料台帳のデジタルデータ化を進め、公開に向けた準備を行った。	
3 県全体の資料センターとしての役割 ・近年増加傾向にある、地域史資料の寄贈・寄託相談や調査依頼等への対応を行った。 (南国稲生稲荷神社及び香美市別役大師堂資料等の文化財保護・調査等) ・高知県立大学と連携し、市町村(東洋町、香美市、三原村等)における地域資料の調査整理・保存指導・展示公開などに関する現地指導を実施した。	
評 価	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財の寄託の受入れを行うなど、地域において後世に引き継ぐべき文化財の保護・保存に努めた。 ・民俗資料を中心に資料分別を行い、可能なものについては旧大柝高校へ移動させるなど、収蔵庫の狭隘化対策を積極的に実施した。 ・ホームページでの公開に向け、資料のデータ化を進めた。

<p>評価項目 (2) 収蔵資料の調査研究を進め、その成果を常設展示及び企画展示等の方法で広く県民に公開する。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・より個性ある資料館を目指すため、資料収集や調査研究のテーマに例えば長宗我部氏や四国遍路、近世庶民史など特色を打ち出す。 ・高知県唯一の重要文化財の「公開承認施設」であることから、県外博物館との連携も行いながら魅力ある企画展の開催に努める。 	
<p>状 況 説 明</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・考古分野では、特別展「備前焼」の開催にあわせて、館蔵の備前焼資料の再評価を行い、展示活用を行った。また、本県出身の考古学者である寺石正路氏の熊本県での足跡について、館蔵資料を基にした成果発表を行った。 ・歴史分野では、企画展「江戸時代の南国」展において、猿田彦神社の陣貝などの調査の成果を公開した。 ・民俗分野では、田辺寿男氏の民俗写真の整理作業を進めるとともに、香美市物部町で民俗・言語・文化財調査を行った。 ・総合展示室では、フレキシブルな展示環境を生かした各種コーナー展や、昭和史に関する資料展示、節目での資料の特別公開を行った。 ・県外博物館との連携では、岡山県との2年次の交流事業として「備前焼」展を開催した。 (岡山では「四万十川の民俗」展を開催) 	
<p>評 価</p>	<p>理 由</p>
<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野において、幅広い調査と成果の公開を実施した。 ・地域資料に焦点をあてた企画展を開催し、地域の姿を広く紹介することができた。 ・岡山県との連携事業では、両県の特色を相互に紹介する魅力ある企画展示を行った。特別展の開催は、本県への関心を高めるとともに、観光客の誘致につながる取り組みであった。

要求水準 2

<p>「高知県の歴史や文化を学ぶ拠点となる」</p>	
<p>展示や教育普及事業を充実させ、県民が、自らが生まれ育った高知県の歴史や文化を知るための拠点となる。</p>	
<p>評価項目 (1) 展示施設、展示内容の両面でリニューアルに向けた検討と実施を行う。</p>	
<p>状 況 説 明</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度のリニューアルは、来観者から好評を得ている。 ・ボランティアのカルチャーガイドを活用した国史跡「岡豊城跡」の団体見学や史跡散策ガイドを実施した。 ・受付窓口での来館者対応や団体への簡易展示案内を可能とするため、受付職員に対して資料解説員としての自己啓発に取り組むよう促した。 	
<p>評 価</p>	<p>理 由</p>
<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度に実施したリニューアルを受け、展示方法の見直しや特設コーナーの開設による展示替えなど工夫がみられ、その効果を引き出そうとしていることが認められる。

評価項目

(2)子どもを対象とする出前授業や資料館での校外学習に計画的に取り組む。

- ・県民が郷土の歴史や文化に親しむことのできる講座等の開催。
- ・資料解説や関連図書等の充実を図るなどで、レファレンス機能を高める。
- ・遠隔地からでもインターネット等により資料館を訪れ学習できるような取り組みを進める。

状 況 説 明

- ・子どもにもわかりやすい展示や子供用解説シートの作成などを行った。学校来館は40校、約2千人の利用があった。
- ・カルチャーサポーターの協力により、勾玉づくりなど体験型事業に改良を加えることができた。
- ・社会人向け講座・講演会は13回開催し延べ800人が受講した。

評 価

理 由

A

- ・教育普及担当学芸員が学校関係者との綿密な打ち合わせを行い、利用規模や年齢層に応じた適切なプログラム提供に努めている。
- ・南国市の新規採用教職員に対して歴史学習の研修が行われている。
- ・カルチャーサポーターとの連携が図られ、積極的な教育普及事業を展開できている。

評価項目

(3)長宗我部氏の居城跡岡豊山に立地していることを踏まえ、長宗我部氏関係の資料収集や研究、その展示等において全国に誇れる資料館となる。

状 況 説 明

- ・戦国期における四国の覇者たる長宗我部氏に特化した「長宗我部展示室」の内容充実に加え、県内中世史の情報を積極的に発信した。
- ・「長宗我部展示室」が知られるようになるにつれ、県内外の歴史ファンが訪れ、岡豊城跡と併せて見学者が増加している。
- ・「長宗我部元親書状」(平出雲守宛)一通の寄託が実現した。

評 価

理 由

B

- ・「長宗我部展示室」や国史跡岡豊城跡を活用した取り組みの充実が図られている。
- ・長宗我部氏関係資料の研究活動の充実が求められる。

評価項目 (4)岡豊山を含めて知的好奇心を高めることができるゾーンの形成を目指すなど、地域との連携を進める。	
状 況 説 明	
国史跡岡豊城跡の活用事業を実施した。 ・南麓の伝家老屋敷跡の発掘調査及び現地説明会の実施。 ・土佐のまほろば地区振興協議会や地域ボランティアなどの協力を得て、「岡豊山さくらまつり」、「長宗我部フェス」などのイベントを開催し、地域との連携を進めた。	
評 価	理 由
A	・歴史をテーマとした地域振興において、地元自治体や各種団体と連携し、その中心的役割を果たしている。

効率的な運営、サービスの向上、施設・設備の管理

評価項目 (1)適正な管理運営の確保	
社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修
状 況 説 明	
・文化財団の個人情報保護規程を遵守し、個人情報の管理を適正に行った。 ・施設・機械設備を適正に管理している。 主な修繕実績 ①収蔵予備室の収蔵庫化工事 ②外壁のシーリング工事(年次計画あり) ・防火防災マニュアルを作成し、緊急時の対応図を各室に掲示して危機管理を行っている。 ・年1度の防火訓練、年2回の防災自主点検を実施した。 ・危機管理面では、24時間常駐体制の人的警備と機械警備を併用し、事故・盗難・災害からの被害を未然に防止するシステムを取った。 ・岡豊山歴史公園は常駐警備員と岡豊山管理職員が日々監視・管理を行い、異常を施設管理責任者である副館長に迅速に報告し、災害・事故の未然防止に努めた。	
評 価	理 由
B	上記により、適正な管理運営が遂行されたと認められる。

評価項目 (2)利用者サービスの維持向上	
サービス向上への取り組み	・自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み
状 況 説 明	
・アンケートなどで来館者のニーズの把握に努めた。 ・クレーム内容は全職員に周知し、改善可能な部分は早急な対応を取った。 ・毎月全体会を行い、情報の共有化と問題点等の討議を行い、良質なサービス提供を図った。 ・広報誌「岡豊風日」を年3回発行し、研究報告と企画展解説、案内等を行った。	
評 価	理 由
B	上記により、利用者サービスの維持向上に努めたと認められる。

評価項目 (3) 利用実績	
利用実績の状況	・利用状況の分析
状 況 説 明	
・入館者目標30,000人に対し、実績25,194人であった。	
評 価	理 由
C	<ul style="list-style-type: none"> ・特別展「備前焼」が前年の特別展に比して低調な結果となったことから、入館者目標に対して84%の実績であった。 ・歴史民俗資料館らしい企画や新たな歴史ファン層の開拓などにつながる方向性を確立するとともに広報にも工夫するなど、今後の目標達成に向けた努力に期待したい。

評価項目 (4) 収支の状況	
経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み
状 況 説 明	
<ul style="list-style-type: none"> ・新たな話題性の追求や学術面での成果等の情報発信による、博物館にふさわしいリピーター獲得をめざした戦略構築や職員の意識改革に努めた。 ・通信経費の節減と集客促進活動を合わせて、ポスター・チラシの広報物の可能な限りの直接配布を行い、来館促進の営業活動を行った。 ・LED化や不要部分の消灯など、電気料の抑制に努めた。 	
評 価	理 由
B	上記により、経費削減の取り組みに努力が認められるものの、収入増加に向けた取り組みの強化が求められる。

総 合 評 価	
評 価	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化財に焦点をあてた展覧会の開催や、児童・生徒を対象とした教育・普及活動など、地域の歴史や文化を学び、次世代に伝える拠点としての役割を果たしている。 ・「長宗我部展示室」や岡豊城跡を活用した事業を積極的に展開しており、地域団体との連携も図られている。また、観光振興にも寄与している。

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。